調査状況の違いが抑うつ症状とパフォーマンスの 自己報告尺度への回答に及ぼす影響

調査モニターと企業内調査の比較

○土屋政雄¹・井澤修平¹・原谷隆史¹

(¹ (独) 労働安全衛生総合研究所)

キーワード: 労働者, 抑うつ, 生産性

Effect of the context of survey setting on response for self-report depressive symptoms and work performance: comparisons between internet panel and an intra-corporate sample

Masao TSUCHIYA¹, Shuhei IZAWA¹ and Takashi HARATANI¹

(¹ National Institute of Occupational Safety and Health, Japan)

Key Words: worker, depression, performance

目 的

労働安全衛生法改正でストレスチェック制度が創設されたが, ストレスチェックを企業で実際行う際に, 調査状況の違いによる労働者の回答への影響を見積もる必要がある。

本研究の仮説は, (1)ある製造業企業の全社員と, 業種を製造業に絞った調査モニターとの間で, 調査モニターの方が抑うつ症状, パフォーマンス共に高く報告する。また, (2)心理社会的ストレス要因と抑うつ症状, パフォーマンスの関係は調査状況により修飾される, である。

方 法

1)対象者

対象集団1(調査会社モニター): 調査会社モニターを利用して, 民間企業にフルタイム勤務で雇用期間の定めがない一般社員を対象に全国から性・年代別に均等に計 5400 名を抽出し, 調査票を 2013 年 3 月に郵送した。性・年齢別の各抽出数および割合は, 男女それぞれで 20-64 歳の 5 歳階級別に各 300 名, 合計 5400 名を抽出し, 調査票を郵送した。対象集団2(ある製造業系企業1社) 中規模の機械系製造業企業における全国の事業所の従業員および役員を対象とし, 2013 年 2 月に調査を実施した。

2)調査指標

- (1)基本属性 性, 年齢をたずねた。
- (2)仕事要因 業種をたずねた。
- (3)ストレス要因 新職業性ストレス簡易調査票(川上, 2012)から, ストレス要因として仕事の量, コントロール, 上司の支援, 同僚の支援を用いた。各項目に対し, 4 件法でたずね, それぞれ 1-4 点を与えた。得点が高くなるほどそれぞれを強く感じていると解釈するように得点化した。
- (4)抑うつ症状 日本語版 Patient Health Questionnaire(PHQ)-9 を用いた。9 項目 4 件法 (0.まったくない~3.ほとんど毎日) の尺度であり, 得点範囲は 0 点から 27 点である。得点が高いほど抑うつ症状が強いことを示す。また, 一般地域住民を対象とした場合に用いられる, 希死念

慮をたずねる 1 項目を除いた 8 項目版も検討した。

(5)パフォーマンス 日本語版 World Health Organization (WHO) Health and Work Performance Questionnaire (HPQ)を用いた。過去 4 週間の全般的な仕事の出来を 11 件法で尋ねる項目を用いた。得点が高いほどパフォーマンスが高いことを示す。

3)統計解析

対象集団を調査状況の違いとし 2 区分変数 (0:ある製造業系企業; 1:調査モニター) を作成した。調査状況別に平均値, 標準偏差を算出した。抑うつ症状とパフォーマンスを目的変数, 調査状況を説明変数とした線形回帰分析を, 2 変量, また基本属性, ストレス要因を調整して行った。次に, 調査状況と各ストレス要因の交互作用項を加えた解析も行った。

結 果

それぞれの対象集団の解析対象者を合計すると 1608 名となった。内訳は次の通りである。対象集団1: 男性 1984 名, 女性 2007 名, 合計 3991 名から回答が得られた (回収率 73.9%)。解析変数に欠損のあった 106 名を除き, 製造業に属する者 963 名を解析対象とした。対象集団2: 725 名から回答が得られた。解析変数に欠損のあった 80 名を除き, 645 名を解析対象とした。

2 つの調査状況の間で抑うつ症状 8 項目版の調整後のみ, およびパフォーマンスはどちらも 95%信頼区間が 0 を含めなかった。調査状況と心理社会的要因の交互作用を検討した所, 抑うつ症状 8 項目では仕事の量と調査状況, パフォーマンスでは同僚支援と調査状況の交互作用の有意な関連が見られた。

考 察

抑うつ症状は調査モニターでの回答が個別企業での回答と比べ得点が低く, パフォーマンスは高かった。また, 抑うつ症状 8 項目版は仕事の量, そしてパフォーマンスは同僚支援によって調査状況とアウトカムの関連が修飾されていた。

表. 調査状況による抑うつ症状およびパフォーマンスの平均値, 標準偏差, 平均値差

	対象集団1(N=963)		対象集団2(N=645)		平均値差	95% 信頼区間	平均値差 (調整後)	95% 信頼区間
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差				
抑うつ症状(9項目)	4.98	5.18	5.13	4.72	-0.15	(-0.65, 0.34)	-0.37	(-0.84, 0.11)
抑うつ症状(8項目)	4.73	4.76	5.02	4.50	-0.28	(-0.75, 0.18)	-0.50	(-0.94, -0.06)
パフォーマンス	6.55	2.00	6.04	2.06	0.51	(0.31, 0.71)	0.40	(0.21, 0.60)

性, 年齢層, 仕事の量, コントロール, 上司の支援, 同僚の支援を調整